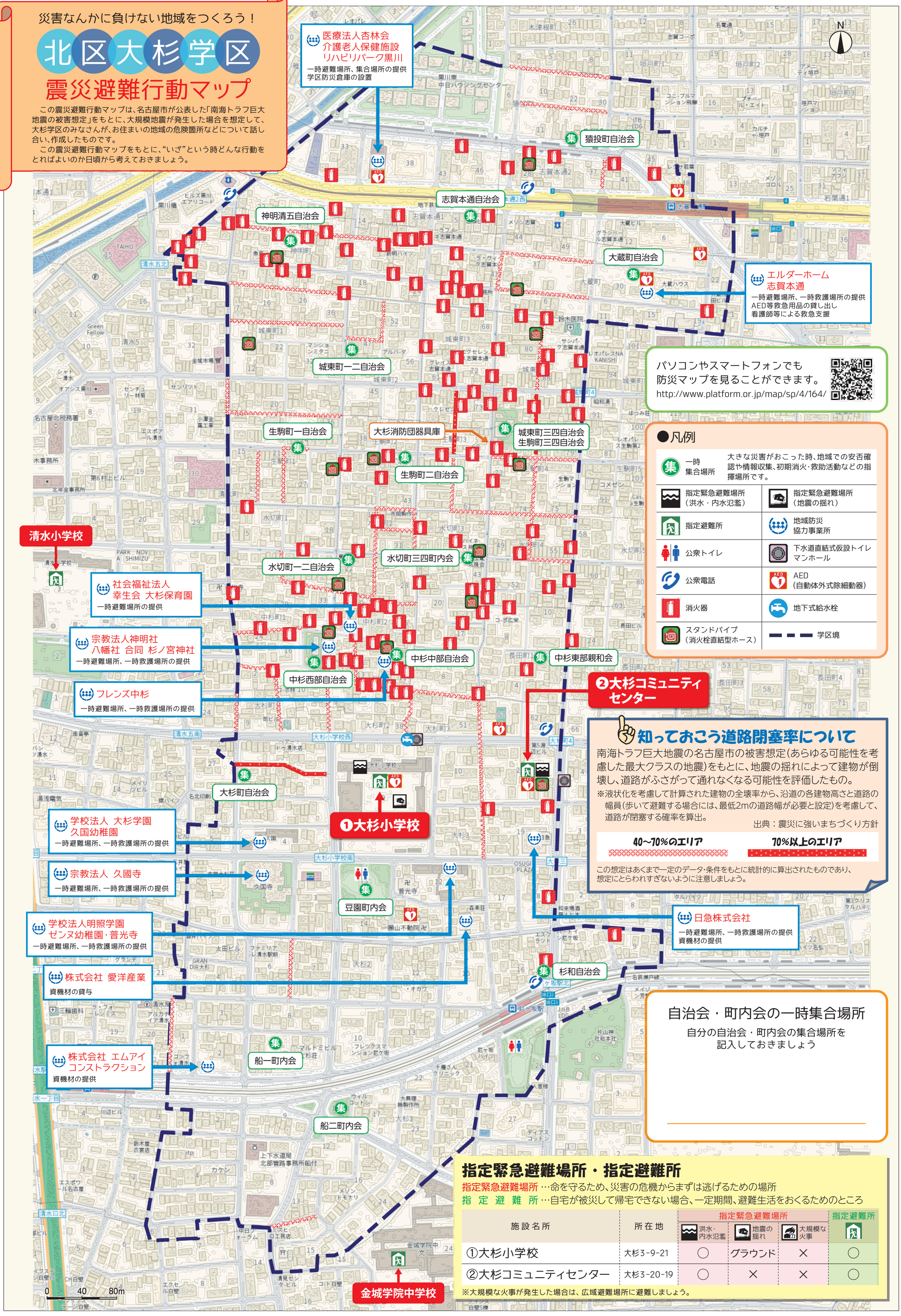
災害なんかに負けない地域をつくろう！

北区大杉学区

震災避難行動マップ

この震災避難行動マップは、名古屋市が公表した「南海トラフ巨大地震の被害想定」をもとに、大規模地震が発生した場合を想定して、大杉学区のみなさんが、お住まいの地域の危険箇所などについて話し合い、作成したものです。

この震災避難行動マップをもとに、“いざ”という時どんな行動をとればよいのか日頃から考えておきましょう。



パソコンやスマートフォンでも
防災マップを見ることができます。
http://www.platform.or.jp/map/sp/4/164/

●凡例

集	一時集合場所	大きな災害がおこった時、地域での安否確認や情報収集、初期消火・救助活動などの指揮場所です。	
	指定緊急避難場所（洪水・内水氾濫）		指定緊急避難場所（地震の揺れ）
	指定避難所		地域防災協力事業所
	公衆トイレ		下水道直結式仮設トイレマンホール
	公衆電話		AED（自動体外式除細動器）
	消火器		地下式給水栓
	スタンドパイプ（消火栓直結型ホース）		学区境

知っておこう道路閉塞率について

南海トラフ巨大地震の名古屋市の被害想定（あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震）をもとに、地震の揺れによって建物が倒壊し、道路がふさがって通れなくなる可能性を評価したもの。

※液状化を考慮して計算された建物の全壊率から、沿道の各建物高さと道路の幅員（歩いて避難する場合には、最低2mの道路幅が必要と設定）を考慮して、道路が閉塞する確率を算出。

出典：震災に強いまちづくり方針

40～70%のエリア　70%以上のエリア

この想定はあくまで一定のデータ・条件をもとに統計的に算出されたものであり、想定にとらわれすぎないように注意しましょう。

自治会・町内会の一時集合場所

自分の自治会・町内会の集合場所を
記入しておきましょう

指定緊急避難場所・指定避難所

指定緊急避難場所…命を守るため、災害の危機からまずは逃げるための場所

指 定 避 難 所…自宅が被災して帰宅できない場合、一定期間、避難生活をおくるためのところ

施設名所	所在地	指定緊急避難場所 洪水・内水氾濫	指定緊急避難場所 地震の揺れ	指定緊急避難場所 大規模な火事	指定避難所
①大杉小学校	大杉3-9-21	○	グラウンド	×	○
②大杉コミュニティセンター	大杉3-20-19	○	×	×	○

※大規模な火事が発生した場合は、広域避難場所に避難しましょう。

作成：北区大杉学区　作成支援：北区役所／北消防署／愛知学院大学　　作成日：令和3年3月

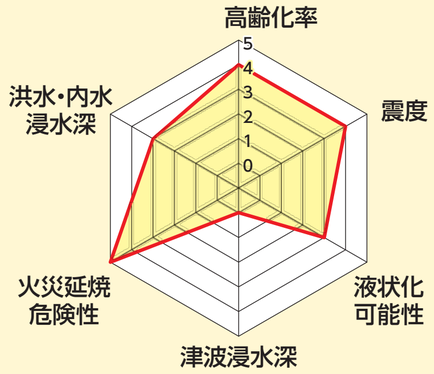
北区 大杉学区 災害時の特性

大杉学区では、南海トラフ地震が発生した場合、震度6強の揺れが起こる可能性が想定されています。

火災が発生した場合は、学区内に古い木造家屋が密集しているため、燃えて倒壊する建物が道を塞いだり、強い熱風が吹き荒れる懸念があります。また、液状化現象が起こる可能性が高い箇所もあり、建物が傾いたり、泥水が溢れだし道を通ることができなくなる可能性があります。これらのことを踏まえ、適切な避難先とそこにたどり着くための安全な経路を、あらかじめ想定しておきましょう。

リスクレーダーチャート

	値	5段階
高齢化率	29.1%	4
震　度	6強	4
液状化可能性	全域で小～中	3
津波浸水深	0m	0
火災延焼危険性	2500棟以上	5
洪水・内水浸水深	1.0m～2.0m未満	3



※各指標の5段階の基準は、地区防災カルテに基づきます。
地区防災カルテは名古屋市公式ウェブサイトをご覧ください。

地区防災カルテはこちらからアクセス

普段からの備え

家族や自治会・町内会で話し合うなど日頃から防災・減災意識を高め、いざという時に備えましょう。

➤ **建物を耐震化する。**
- 昭和56年5月以前に着工した住宅には助成制度があります。

➤ **感震ブレーカーを設置する。**
- 震災後の電気火災を予防するため、感震ブレーカーを設置しましょう。(名古屋市の助成制度があります。)

➤ **家具を固定する。(転倒防止対策)**
- 家具に押しつぶされたり、避難の妨げとならないよう家具等を固定しましょう。

➤ **非常持出品・備蓄品を準備しましょう。**
- 水や食糧、携帯用トイレ等の備蓄品を1週間分、そのうち3日分は非常持出品として持ち運びができるようにしましょう。

➤ **安否確認方法を決めておく。**
- 災害用伝言ダイヤル「171」や災害用伝言板サービスを確認しておきましょう。(毎月1日・15日、正月三が日、防災週間などに体験できます。)

➤ **指定緊急避難場所、指定避難所、自治会・町内会の一時集合場所等を確認する。**
- 避難場所等を確認しておきましょう。また、避難するルートも確認しましょう。

地震発生! 大杉学区災害時の対応ルール

激しい揺れ
- 頭を守り、倒れるもの・動くものから離れる
- 揺れがおさまるまで体を低くして動かない
- 避難口をあける

揺れがおさまった
- 怪我をしないように靴やスリッパを履く
- 家族の安否確認、自宅の被害状況の確認
- 火の元の確認、出火したら初期消火
- 非常持出品の準備
- テレビ・ラジオ・スマートフォンなどから正しい情報を入手
- 電気のブレーカーを落とす、ガス・水道の元栓をしめる
- 被害が無ければ、「安否確認札」を玄関のわかりやすい場所に提示し、周囲に無事であることを伝えましょう。

隣近所で安否確認・救助
- 火災が起きたら、隣近所で協力してすぐに消火しましょう
- 組の皆さんで協力して安否確認をしましょう(高齢者や障害者の安否確認)
- 救助が必要な人を見つけたら、周りに声掛けをして助けましょう

一時集合場所へ集合
- 各自治会・町内会の一時集合場所へ集合し、自治会長・町内会長に安否確認の状況や被害状況を報告
- 救助活動や一人で避難することが難しい方の避難誘導に協力

付近で火災等の危険発生

火災からの避難
- 火災が延焼拡大した場合は、広域避難場所などの身を守ることができる場所へ避難
- 火災を避け、風上に逃げる
- 倒壊家屋が道を塞ぎ、火災が延焼するので注意

余震からの避難
- 周りに倒壊しそうな建物がない小中学校のグラウンドなどの広い空地へ避難
- 建物の倒壊等に注意

危険がなくなったら

自宅での滞在が可能か

○ → 在宅避難

× → 指定避難所

自宅に住めるなら、なるべく自宅で避難生活を!
避難所では不特定多数の方が避難生活を送るため、環境の変化とともに大きな負担がかかることが想定されます。火災や家屋崩壊などの危険がない場合は、自宅で避難生活を続ける“在宅避難”を考えましょう
- 災害救助地区本部(大杉小学校)に在宅避難を知らせよう!
- 周囲で声掛けし、助け合おう!

一人では逃げられない方への対応

過去の災害では、周囲からの「声かけ」と「避難の手伝い」が、下記のような高齢者や障害のある方などの避難行動を早めました。日ごろから地域でお互いに顔の見える関係を構築し、地域みんなでいち早く避難行動がとれるよう協力しましょう。

情報の入手や判断が難しい方

例えばこんな方

目が見えない方、耳の聞こえない方、認知症の方、知的障害のある方、日本語が苦手な外国人、ひとり暮らしの高齢者や高齢者のみの世帯など

対応方法

優しい言葉でゆっくり声かけ　メモや、身振り手振りで伝える

移動が難しい方

例えばこんな方

普段、杖・押し車・車椅子などを使っている人、寝たきりの人、けが人、病人、妊婦さんなど

対応方法

複数で手伝う　身近にあるものを利用する

住民からのメッセージ